

カラフル

2021.3
発行
No.6

目次

- P1.2 …… コロナに負けるな!子どもと職員で乗り越えたセンター祭
 P2.3 …… センター紹介
 「あすなる4階病棟」「リハビリテーション課(言語療法:ST)」
 P4 …… 草の実病棟 病棟クラブ

カラフルとは、個性豊かな子ども達がその子らしく過ごしていくことや、時には他の色と混じって新しい色をつくりあげていくことを表現しました。

【コロナに負けるな!子どもと職員で乗り越えたセンター祭!】



 新型コロナ禍の中で

新型コロナウイルス感染症が広がっており、日常的に感染予防策を取り入れる生活が定着しつつあります。当センターに入院している子どもたちも、マスクの着用や手指消毒等、感染対策を日頃のルーティンとしながら入院治療を頑張っています。今年度は全国的に行事の自粛が余儀なくされる年となりましたが、当センターでは、感染予防とプログラムの工夫を凝らし、令和2年10月10日土曜日、入院している子どもたちと職員だけという例年よりも小さな規模にてセンター祭を開催することができました。センター祭は、児童精神部門(あすなる)・小児整形部門(草の実)の子



どもたちと全職員が合同で行う療育活動であり、子どもたちの成長を促進する場でもあります。

よさこいや太鼓、病棟ごとの出し物や作品作りなど、子どもたちはこの日のために一生懸命練習してきました。『人前に立つのはちょっと…』『出し物大丈夫かなあ…』と緊張することもたくさんありました。時には練習中に気持ちが抑えられずケンカになることもありました。でも、そんな不安や緊張感を乗り越えながら、最後まで諦めずに練習に励み、当日を迎えることができました。



 リモート開催!!

草の実病棟の子どもたちは、感染を少しでも予防できるよう、病棟と体育館を繋ぐ初のリモート画面での参加となりました。草の実病棟・あすなる病棟合同で行ったよさこいは同じ空間で行われているような迫力があり、子どもたちと全職員が力を合わせて日頃の活動の成果を発揮できる場となりました。あすなる病棟の太鼓や病棟ごとの出し物では、ワクワクドキドキしながらも、仲間と協力して披露することができ、終わった後のあすなる病棟の子どもたちの誇らしげな表情と、リモート画面を通じて見ている草の実病棟の子どもたちの笑顔は大変印象的でした。



閉会式終了後、緊張感から解放された子どもたちは、のびのびと飲食店やあそびコーナー、展示作品、フリーマーケットを見て回りました。

『センター祭たのしかった』『出し物練習してきて良かった』などの感想もたくさん聞かれ、コロナに負けず、センター全体で取り組んだことが、子どもたちの大きな自信に繋がりました。



来年度こそはみんなで...

来年度以降の開催についても、子どもたちが主体的に取り組み、ご家族や関係者の方々に「僕・私頑張ったよ」「すごかったやろ」と自信を持って言えるセンター祭が提供できるよう、工夫を重ねていきたいと思います。来年度は皆さまにお越しいただき、子どもたちの活躍する姿を見ていただけることを願っています。



あすなる 4階病棟

あすなる4階病棟は小学校高学年から中学3年生までを対象とする男子思春期の病棟です。看護師・保育士・福祉技術職に加えて病棟専従の心理士・精神保健福祉士が配属されているのが大きな特徴です。当病棟は、子どもたちが自己の課題に向き合い、それぞれの成長・発達が促せるよう多職種の連携を強化しています。集団行動が苦手な子どもたちが、同年代の仲間と様々な体験を通して対人スキルの向上や集団で行動する力を養い、子どもの生きる力を育めるように支援しています。

主な治療・支援

◎安全・安心な生活環境の提供・生活支援

◎基本的な生活習慣の習得・改善

◎療育活動や病棟行事の実施

◎かがやき特別支援学校あすなる
分校への安定した登校を支援・連携

◎対人スキルの向上により、同年代の
子ども達との仲間作りの体験

◎遊びを通して職員との信頼関係づくりを
基盤に、1対1の関係性から複数の子ども
へと対人関係の広がりをサポート

◎子どもが困り感や悩みを相談し、解決できる
ように援助



未来に希望を!

職員は、少しでも人生の先輩として子どもたちのよきモデルになれるよう、いつも穏やかに、変わらない姿で子どもを見守っています。その土台の上で、同年代との交流を通して自己の希望が見つけられるよう日々の支援にあたっています。心や体が急激に成長する大切な時期にこの病棟で過ごしていただいた体験が、将来への大きな力になると信じています。



病気、けが、障害などによって『話す』『聞く』『表現する』などのコミュニケーションや、食べたり飲んだりすることに問題がある方に対して、言語聴覚士が相談・評価・リハビリを行っています。

言語療法

主に「ことばが遅い」といった相談に対して、ことばの理解力やコミュニケーションの発達段階を評価し、そのお子さんに合わせた指導や関わり方について助言を行います。また、上手く発音が出来ないお子さんに対して、発音の練習を行います。



摂食機能療法

「離乳食が進まない」「適切な食形態や介助方法がわからない」などの相談に対して、お口の動きや飲み込みを評価し、咀嚼嚥下機能向上のためのリハビリや助言を行います。



- 個別担当の予約制で1回40分です。
- お子さん一人ひとりの現在の状態を評価し、目標や介入手段を検討、提供します。

当センターのSTの特色として…。

学習障害(LD)評価

児童精神科医師の診察において、「読むこと」や「書くこと」等、学習面に関する評価が必要と判断されたお子さんについて、公認心理師や作業療法士と連携し、評価を行います。評価内容や結果、今後の対応や必要な配慮について、保護者の方や学校の先生に直接説明を行う機会を作っています。



調理支援

摂食機能に障害があるお子さんに適した食形態について、管理栄養士・調理師と連携し、保護者の方に調理方法の説明や実演を行うことにより、家庭での食事を支援します。親子入院時や外来リハビリ時に、STのリハビリと合わせて行います。



親子入院 特定目的入院

リハビリ目的で入院しているお子さんに対して事前に目標を設定し、多職種と連携して集中的にリハビリ(言語・摂食機能)を行います。

草の実病棟 病棟クラブ

草の実病棟には、運動器(筋・骨・関節・脊椎など)に障がいがあるお子さんや運動発達に遅れがあるお子さんが入院・入所しています。

療育活動の一環として、草の実病棟のお子さんを対象に月一回病棟クラブを行っています。地域支援課・育ち支援課の職員が中心となって企画し、毎月色々な活動をしています。余暇時間にみんなで取り組むことで、仲間とのかかわり合いや楽しむ時間を共有することを目的に実施しています。

ボッチャ

ボッチャは、パラリンピックの正式種目の一つであり、老若男女、障がいのあるなしに関わらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツです。ボールを投げることができなくても、匂配具(ランプ)を使って参加することができます。審判にも挑戦しながら、チーム戦で楽しく競い合いました。



これが匂配具(ランプ)です!

作品作り

みんなで協力して、センター祭やくさパラピックで展示する作品を作りました。

イラストや文字の枠に、ペットボトルの蓋やテープ、シールを使って色付けを行いました。色付けを行い、色とりどりのすてきな作品が出来上がりました。



プール

夏休みに屋上でプール遊びをしました!

浮き輪でプカプカ浮いてリラックスしたり、水をかけあったりして遊びました。水の中では重力の影響が少なく、浮力を使って、様々な姿勢を経験することができます。夏のいい思い出になりました。



くさパラピック

オリンピック・パラリンピックにちなんで、くさパラピックを開催しました!

徒競走や玉入れ、リレーなど、職員を交えてチーム戦で行いました。みんなで力を合わせて作った展示作品を前に、広い体育館でのびのびと動く子どもたちには笑顔がこぼれていました。



広報委員より

早いものでもう3月ですね。今後もみなさんに役立っていただけるような情報を発信できるように心がけます。

広報委員(櫻井・中村・西根・青山)



三重県立子ども心身発達医療センター

〒514-0125 三重県津市大里窪田町340番5

電話 059-253-2000(代)

FAX 059-253-2031

URL : <http://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC>

